

〔初春どり重量野菜の端境期に対応した品質安定化技術〕

2月中旬どりダイコンの栽植間隔と被覆資材の検討

木下沙也佳・野口 貴*・吉原恵子・海保富士男・大槻優華
(園芸技術科) *現農振事

【要 約】 2月中旬どりに適したダイコンの長形品種は「YR 春の浦」で、マルチは透明で栽植密度は27cm2条が、短形品種は「味短歌」で、マルチは透明で20cm2条が適する。被覆方法は長形、短形ともにユーラックカンキ2号と寒冷紗のトンネル二重被覆が適する。

【目 的】

前報で、長形品種の有望な2品種を選定し、マルチは透明で株間24cm以上がよいことを明らかにした。加えて、短形品種1品種の選定と透明マルチ9320での栽培について報告した。本報では、栽植間隔と被覆方法の比較を行い、今後の資料とする。

【方 法】

長形品種「桜の砦、YR春の浦」および短形品種「味短歌」を、2023年10月13日、透明マルチを敷設した幅70cm、通路50cmの東西方向のベッドに1穴3粒ずつ播種した。マルチは、長形品種では規格9230(株間30cm)、9227(同27cm)を用いた。短形品種では、マルチ9220および9320を用いた。播種直後から寒冷紗#300(ビニロン製)またはベタロンでトンネル被覆をする区、およびパスライトでべたがけをする区を設けた(表1)。2023年11月16日~2024年2月15日は「ユーラックカンキ2号(以下UK2)」または「ポリホール」を併用して二重被覆とした。間引きは10月27日に1穴1本とした。肥料はN-P₂O₅-K₂O=15-25-15kg/10aとし、全量基肥施用した。収穫調査は2024年2月15日に行った。

【成果の概要】

1. 被覆資材やマルチの違いがダイコンの根の生育に及ぼす影響を表1に示した。根長や根重については、品種や被覆資材の組み合わせで大差はなかった。そのため、長形品種の植穴間隔は27cmが適することが示唆された。一方、短形品種の「味短歌」では、植穴間隔が20cm2条で収穫サイズ(根長20cm)に到達していた。
2. 抽苔は「YR春の浦」よりも「桜の砦、味短歌」で遅かった。
3. 抽根部の状態をみると、長形品種では「桜の砦」に比べ「YR春の浦」で障害の程度が低い傾向だった(図1)。ポリホールとUK2を比較すると、UK2で障害の程度が小さく、特に、UK2と寒冷紗の二重トンネルの組み合わせでは、表皮の割れが見られず、他の障害も少なかった。短形品種「味短歌」では、どの区も表皮の割れは見られないものの、その他の障害はみられた。被覆の組み合わせでは、UK2と寒冷紗の二重トンネルで障害の程度が比較的低かった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

「YR春の浦」は「桜の砦」より抽苔が早いですが、実用上の問題はない。ダイコン内部の褐変は、外観から判別することができないため、内部褐変程度は低いことが望ましい。

表1 被覆資材やマルチの違いがダイコンの根の生育に及ぼす影響

品種	被覆資材		マルチ	根長		根重		根径		抽苔 ^b 程度
	外側	内側		cm	c. v.	g	c. v.	cm	c. v.	
桜の砦 (長形)	ポリホー ル	寒冷紗	透明9230	43	0.10	1394	0.23	4.5	0.9	2.5
			透明9227	45	0.07	1320	0.12	3.2	1.2	1.5
	ユーラッ クカンキ 2号	寒冷紗	透明9230	42	0.19	1284	0.36	6.1	0.5	1.0
			透明9227	40	0.11	1280	0.27	6.1	0.5	1.0
		ベタロン	透明9230	45	0.13	1344	0.32	6.2	0.5	1.0
			透明9227	38	0.08	1077	0.20	5.3	0.6	1.3
	パスライ トベたが け	透明9230	42	0.16	1144	0.33	4.5	0.8	1.0	
		透明9227	40	0.11	1022	0.19	5.7	0.5	1.0	
YR春の浦 (長形)	ポリホー ル	寒冷紗	透明9230	40	0.15	1174	0.34	5.7	0.6	2.0
			透明9227	42	0.04	1497	0.07	3.4	1.2	2.3
	ユーラッ クカンキ 2号	寒冷紗	透明9230	42	0.15	1060	0.23	5.8	0.5	1.5
			透明9227	39	0.15	1224	0.31	6.0	0.5	2.0
		ベタロン	透明9230	48	0.15	1501	0.31	6.2	0.5	2.3
			透明9227	43	0.11	1256	0.24	5.9	0.5	2.3
	パスライ トベたが け	透明9230	46	0.12	1262	0.21	5.9	0.5	2.0	
		透明9227	40	0.14	1091	0.29	5.7	0.5	2.3	
味短歌 (短形)	ポリホー ル	寒冷紗	透明9220	20	0.21	824	0.40	6.0	0.8	1.5
			透明9320	18	0.23	579	0.48	6.1	0.5	1.8
	ユーラッ クカンキ 2号	寒冷紗	透明9220	20	0.20	819	0.46	5.7	0.8	1.0
			透明9320	17	0.24	478	0.60	6.8	0.2	1.0
		ベタロン	透明9220	23	0.20	958	0.44	5.0	0.7	0.8
			透明9320	19	0.21	603	0.56	6.5	0.4	1.1
	パスライ トベたが け	透明9220	23	0.26	1032	0.58	4.9	0.9	1.0	
		透明9320	21	0.19	633	0.43	4.8	0.8	1.0	

a) 2024年2月15日調査。ただし、抽苔程度のみ2024年4月13日調査。

b) 0：抽苔なし，1：花芽確認，2：花芽が伸びている，3：開花，とし，区ごとの平均値を示した。

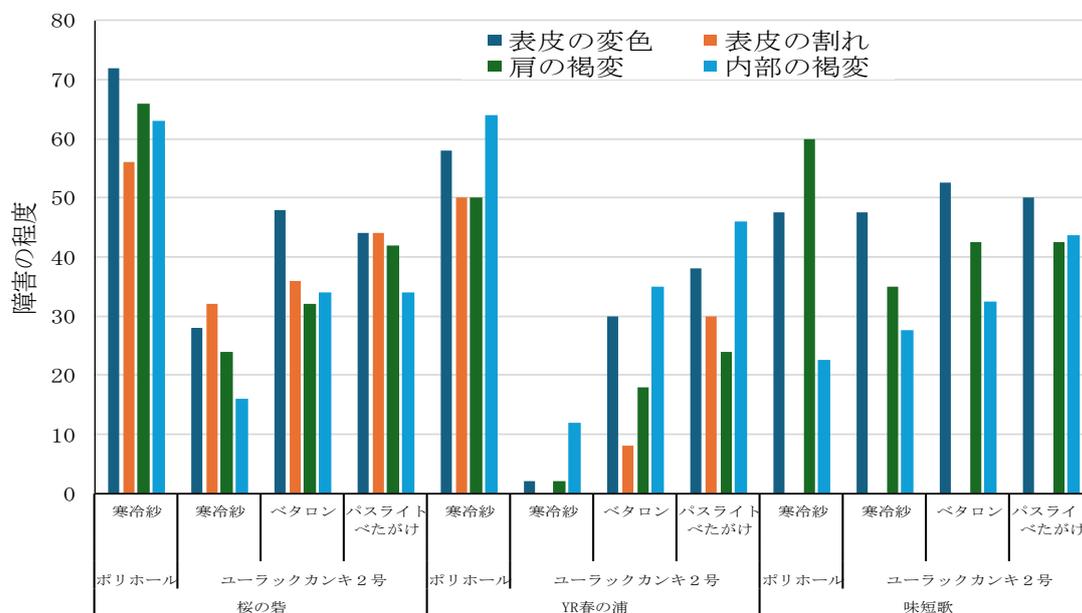


図1 資材の違いが抽根部の障害の程度に及ぼす影響

注) 障害の程度 = $\sum \{ (\text{指数} \times \text{該当数}) / (5 \times \text{調査数}) \} \times 100$ とし，指数5 (甚) ~ 1 (少)，0 (障害なし) (2022年度成果情報を参照)。被覆資材等の種類は表1と同様。味短歌は表皮の割れがなかったため記載なし。2024年2月15日調査。長形品種は透明9227の障害，短形品種は透明9220の障害を示した。